

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 4 区分

【発行日】令和 3 年 10 月 7 日 (2021.10.7)

【公開番号】特開 2021-34072 (P2021-34072A)

【公開日】令和 3 年 3 月 1 日 (2021.3.1)

【年通号数】公開・登録公報 2021-011

【出願番号】特願 2019-149950 (P2019-149950)

【国際特許分類】

G 1 1 B 5/70 (2006.01)

G 1 1 B 5/78 (2006.01)

G 1 1 B 5/735 (2006.01)

G 1 1 B 5/738 (2006.01)

G 1 1 B 5/706 (2006.01)

【F I】

G 1 1 B 5/70

G 1 1 B 5/78

G 1 1 B 5/735

G 1 1 B 5/738

G 1 1 B 5/706

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 8 月 30 日 (2021.8.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

非磁性支持体と強磁性粉末を含む磁性層とを有する磁気テープであって、
70 ～ 100 時間の加熱前後で、50 ～ 100 の範囲の測定温度における損失正接 $\tan \delta$ の変化量 $\Delta \tan \delta$ が 0.000 以上 0.012 以下である磁気テープ。

【請求項 2】

非磁性支持体の一方の表面側に前記磁性層を有し、他方の表面側に非磁性粉末を含むバックコート層を有し、下記式：

$$2 = a \times [D_a / (D_a + D_b)] + b \times [D_b / (D_a + D_b)]$$

により求められる変化量 $\Delta \tan \delta$ が、0.000 以上 0.020 以下である、請求項 1 に記載の磁気テープ；

式中、

D_a は、前記非磁性支持体上の前記磁性層側の部分の厚みであり、

a は、前記加熱前後での前記磁性層側の部分の 50 ～ 100 の範囲の測定温度における損失正接 $\tan \delta$ の変化量であり、

D_b は、前記非磁性支持体上の前記バックコート層側の部分の厚みであり、

b は、前記加熱前後での前記バックコート層側の部分の 50 ～ 100 の範囲の測定温度における損失正接 $\tan \delta$ の変化量である。

【請求項 3】

前記磁性層側の部分の厚み D_a が 0.20 μm 以上 0.50 μm 以下であり、かつ

前記バックコート層側の部分の厚み D_b が 0.20 μm 以上 1.50 μm 以下である、請求項 2 に記載の磁気テープ。

【請求項 4】

前記磁性層側の部分の厚み D_a が $0.20\ \mu\text{m}$ 以上 $1.00\ \mu\text{m}$ 以下であり、かつ
前記バックコート層側の部分の厚み D_b が $0.20\ \mu\text{m}$ 以上 $0.90\ \mu\text{m}$ 以下である、請求項 2 に記載の磁気テープ。

【請求項 5】

前記バックコート層は、無機粉末およびカーボンブラックからなる群から選ばれる 1 種以上の非磁性粉末を含む、請求項 2 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の磁気テープ。

【請求項 6】

前記非磁性支持体と前記磁性層との間に、非磁性粉末を含む非磁性層を有する、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の磁気テープ。

【請求項 7】

前記強磁性粉末は、六方晶フェライト粉末である、請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載の磁気テープ。

【請求項 8】

前記強磁性粉末は、
- 酸化鉄粉末である、請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載の磁気テープ。

【請求項 9】

請求項 1 ～ 8 のいずれか 1 項に記載の磁気テープを含む磁気テープカートリッジ。

【請求項 10】

請求項 1 ～ 8 のいずれか 1 項に記載の磁気テープと、磁気ヘッドと、を含む磁気記録再生装置。